



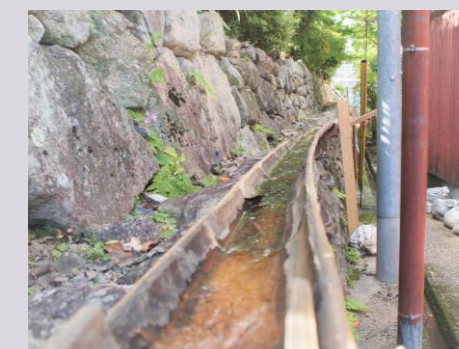
「いやいや、またまた…。」
 子どもの話を信じないフリを
 すると、現場まで案内をして
 伝えてくれました。
 「ほら、ここから。本当にカニ
 が来たんだよ。」



園児が作成した
 設計図を反映



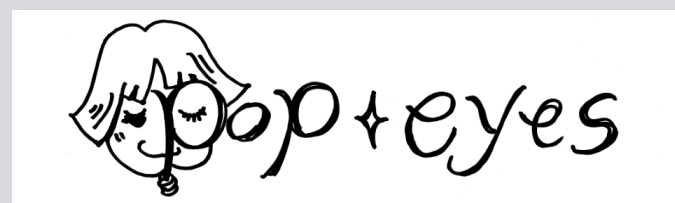
「キノコでどんな生き物
 が来るか」「草の隠れ場所」
 「カエルが来る田んぼ」
 などがかいてあります。→



幼稚園に隣接する寺院・生源寺を通る川の水をうまく取り入れ、園庭を通り、再びふもとに流れていくという、さらさらと水が循環するビオトープ。極力、自然のものを使用した設備には、地域の方々の資材等のご協力もあったそうです。

「生き物を大好きになってほしい」「興味関心を広げてほしい」といったような保育者の願いがあったことでしょう。新しい事業をするには、相当なエネルギーも必要だったと思います。しかし、そんな先生はきっと子どもたちのモデルにもなると思います。

自然環境を理解するために、興味をもった子を巻き込みながら、「生き物主体」の環境の在り方をこれからも深めていかれるのでしょうか。今後も楽しみです…。



「カニを呼ぶ園庭」
 令和7年度 VISIT_25 2025. 6.
 教育委員会 大津市教育センター 松尾 誠史



「今日もカニ、来てるかなー。」と
 樋のあたりをのぞき込んでいます。こ
 の日、カニは来なかったようですが、
 大事そうに抱えた4匹のカニが入っ
 た飼育ケースを、保育室前では見せて
 くれました。

この日は元気に跳ねるトノサマ
 ガエルがやってきていました。

トンボやカエルなどの水に関わ
 る生き物も、バッタやチョウなど
 の草木に関わる生き物も、今後も
 様々と見られそうですね。



(協力：大津市立坂本幼稚園)